

足利風 -ashikaga-fu

2022
10月号
Vol.82



画：中山キツコ

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集!
「コモズノ精神」
- *TOPICS
「ジェンダーフリーの
理解深まる！」
- *私のボランティアことはじめ
「3.11 大震災 被災地から
いただいた宝」
- *サークル紹介
「足利うちどく推進委員会」
- *INFORMATION

* 特集！ *

コモンズの精神

コロナ禍のいま“漂泊”に憧れている人が多いと言う。寺山修司の言葉がある～“漂泊”とは、たどりつかぬことである。たとえ、それがどこであろうとも、われわれに夢があるあいだは「たどりつく」ことなどはないだろう。～ SDGsの時代を生きる私たちに道しるべを示してくれる先達がいる。“人間の経済”を語り、日本を代表する、ノーベル賞候補であった経済学者・宇沢弘文(1928～2014)



さんである。宇沢弘文さんは、水俣病をはじめとする数多くの公害の人間被害の実態を分析していく過程で、その原因を解明し、根源的解決の道を探ることができるような理論的枠組みとして到達したのが「社会的共通資本」という考え方だった。かつてあった“入会(いりあい)制度”のように、みんなで相談して大切に使い、次の世代に伝えていく、つまり“コモンズの精神”を取り戻す必要がある、と語る。自然環境は

「社会的共通資本」として最も重要だ。人間はもちろん、あらゆる生物は自然環境の中で生きてゆくものだからだ。現在の地球温暖化や生物多様性保全などの地球規模の課題は、元をたただせば近代文明の考え方を無反省に行なってきたためであり、自然の摂理を遠ざけてきたためでもある。また、利益至上主義で暴走する市場原理主義の結果でもあるのだ。豊かな社会とは、すべての人々がその先天的資質と後天的資質と能力とを十分生かして、夢と願いが最大限に実現できるような仕事に携わり、その私的・社会的貢献にあい等しい収入を得て、幸福で安定的な家庭を営み、文化的水準の高い一生を送ることができるような社会である。それはまた、すべての人々の人間的尊厳と魂の自立が守られ、市民の基本的権利が最大限に確保される社会である。

ある世界的建築家は語る～原始集落では住居以外の外部空間はすべて“コモンズ”(共通資本)だった。“コモン”とは“コミュニティ”の語源であり文字通り“コモンズ”という空間を失った社会では共同体が消えてゆく・・・コロナ禍という社会の裂け目から見た未来には“コモンズの精神”がいっそう輝きを増している。

(M生)



* TOPICS *

ジェンダーフリーの理解深まる！

相談室「ジェンダーフリーのすすめ」は、佐野から“グループ・わっくる”をお迎えし、お話や演出で大盛り上がりとなりました。相談室の直前に、『牛井・吉野家常務の不適切発言』が全国的に話題を集めたこともあり、参加者たちも“ジェンダー”(文化的・社会的性差)の意識がまだまだ遅れている日本の現状認識を新たにしました。今話題のSDGsにも“ジェンダー”項目があり、尚一層の、両毛地域への啓発活動を共にすすめる必要性を誓いあい、閉会となりました。またの出会いを！



* 私のボランティアことはじめ *

3.11 大震災 被災地からいただいた 宝物

久保田光明

22,000人以上犠牲になった3.11東日本大震災から11年目、今年も38,139人の人々が避難生活を送っています。家を無くし、家族を亡くし命からがら避難し生きている人々のことを思うと、心が痛みじっとしてられない思いが湧いてきます。

お陰さまで11年間、宮城県石巻市の支援活動から福島県飯館村など20数カ所の被災地支援活動のご縁を頂くことができました。今年も、東松島市「あおい地区団地」を訪ねました。自治会長の小野竹一さん(74)は自宅が流され、近隣の多くの方が犠牲となり、生き残された人々との仮設住宅生活から、「みんなで行政と相談し、新しい日本一の古里をつくろう」と、ついに580世帯の「あおい地区復興住宅団地」が完成しました。小野さんは「ここに住む人が日本一と思ってくれたら幸せです」と話されました。

11年前すべてを失った人々が、力強く助け合って生き抜いている姿に、大きな大きな勇気と宝物を与えていただきました。その宝物とは、「家族同士が助け合い、近隣同士が助け合い、毎日の命を大切に生きていくこと」でした。現在私は、民生委員としても、被災地から頂いた宝物をかみしめて、地元地域の皆さんと共に「一人暮らしの人への見守り等、支えあいの町づくり」に取り組んでいます。

世界中に広がる大災害、地球温暖化による異常気象、コロナウイルス感染の拡大、ロシアのウクライナ武力侵攻……。すべてが人間の欲望を満たすために起こしていることではないでしょうか。ユネスコ憲章前文に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあるように、一人一人の心に「人間の尊厳・平等・相互の尊重」といういのちを尊ぶ優しい心、思いやりの心を養うことが不可欠です。私たちは、ピースサポート(平和への支援)の活動推進に努力・精進していきたいと思います。



* サークル紹介 *

「足利うちどく推進委員会」

「うちどく」(家庭での読書活動等)を市内小中学生と保護者に向け、小中学校PTA連合会と協働で推進しています。学力向上、豊かな心の育成、家族のコミュニケーションを増やすことを目指し、毎年秋に読んだ本の感想を家族で伝え合う「うちどくコメントコンクール」を開催しています。また、読書への関心を高めるため、おすすめの本を持ち寄る書評ゲーム「ビブリオバトル」の出張講座を小中学校に展開しております。



足利うちどく推進委員会 委員長 桑山弘和

* INFORMATION *

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。）

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和4年10月22日(土) 13:00～15:00

*本:「凡人のための地域再生入門」(木下 斉)

*案内人: 鈴木 光尚 さん

*ひとこと: 著者は、高校1年の時に地元・早稲田商店街の活性化に足を踏み入れてから20年活動している。各地域の「地元がヤバい・・・と思ったら」読む本です。本の腰巻には『補助金が地方のガンなんや』、『自分らの手で稼ぐそれ以外の方法で再生なんてありえへん』とあり、著者がこの本から感じてもらいたいことは、『いつまで待っても地元にはスーパーマンは来ない』、『どの地域だって“始めること”はすぐにできる』です。みんなで一緒に読んで、語ってみませんか

★令和4年11月18日(金) 14:00～16:00

*本:「生協の白石さん」(白石昌則)

*案内人: 神 早紀 さん

*ひとこと: 某大学の生協の白石さんが、一言カードを通じて学生の要望や質問に答えていきます。白石さんの誠実なキャラクターが良く、クスツと笑えます。決まり文句でなく自分の言葉で答え、問題解決などに向かう真摯な姿勢が魅力です。それが今の社会に求められているのだと思います。どうぞみなさんと一緒に!

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆企画展 (交流コーナー)

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| * 9月26日(月)～10月6日(木) | 四季の山の写真展 |
| * 10月11日(火)～10月20日(木) | 好彩会色鉛筆画展 |
| * 10月24日(月)～11月2日(水) | 足利絵手紙の会展 |
| * 11月7日(月)～11月17日(木) | 川島直人水彩画展 |
| * 11月22日(火)～12月1日(木) | 銘仙リサイクルと足利古写真展
& 足利風表紙展 |

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで
(10/17・土・日・祝日・第3月曜日は休館日)

☆相談室&講座

*相談室 = 毎月第2・第4水曜 14:00～16:00

*講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

初夏のころ「家庭菜園」ほどではないが、雑草芒々だった庭を手入れしてピーマンの苗を植えてみた。楽しみに水やりしていた翌朝、ネキリムシに数本切り倒されてしまい、落胆とともにいろんな害虫がいるものだと知った。土が悪いのかヒョロヒョロではあるが、それでも採りたての野菜は最高だ。また来年もがんばろう。
(しおぱん)